

天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



たなばた集会 ビデオ放送で

7月2日(金)授業前の児童集会の時間を使って、七夕集会を行いました。例年、体育館に集まり、全校児童集会の形でっていますが、昨年からは、新型コロナウイルス感染症対策のために体育館での集会を行っていません。今年も、ビデオ放送の形で、各教室のテレビモニターを通しての発表がありました。

児童会役員の子どもたちが中心となり、各クラスの願い事、先生たちの願い事について取材しビデオに収録しました。集会当日の放送では、児童会役員による「たなばたものがたり」の絵本の読み聞かせも披露されました。

集会の最後、恒例の校長からの話がありましたが、ここでは次のように話しました。

四季という、季節の移り変わりのある日本では、それぞれの季節ごとにいろいろな行事が行われています。年中行事といえます。

お正月の初詣 おせち料理や七草がゆ 2月の節分には豆まきをしますね。春のひな祭りやお花見 五月の端午の節句には兜をかぶった人形を飾ったり、鯉のぼりをあげたりします。秋には十五夜のすすき飾りやおだんごもありますね。数え上げたらきりがありません。どの年中行事にも、昔からの言い伝えや、人々の願いごとがあるようです。

今日は、七夕祭りにあわせた集会です。

七夕(たなばた)は、古くから行われている日本のお祭り行事ですが、もともと日本の神社に伝わる行事と、中国で生まれた「おりひめ・ひこぼし伝説」とが合わさって、今に伝わる行事だと言われています。

こと座のベガと呼ばれる星は、裁縫の仕事に任された織女(しょくじょ)で、神様たちが着る着物を仕立てるための布を織る仕事をしていました。

わし座のアルタイルという星は、農業の仕事に任された牽牛(けんぎゅう)で、畑仕事に使う牛の世話をしていました。

この二つの星は、旧暦の7月7日に天の川をはさんで最も光り輝いて見えることから、一年に一度、七夕の夜にだけ会うことができるという、おりひめとひこぼしのお話が生まれました。

さて、今年の七夕の夜、空は晴れて、二人の星は会うことができるでしょうか。七夕の夜、少しでも雨が降れば二人は会えないと伝えるところもあれば、雨でも二人は会える、雨はおりひめのうれし涙で、雨の水でけがれが洗われるなどとするところもあります。

一方、二人が会えると、悪い病気が流行るとして、会えないように雨を願うところもありました。旧暦の7月7日は今の暦では八月二十日ごろのため、長く雨の降らない干ばつに苦しんでいた地方の人が雨を願ったという話もあります。

雨降りの天気よりも、晴れた方がいろいろと嬉しい気持ちになりますが、雨は雨で私たちの生活に必要な水を届けてくれる大切な恵みです。あまり嬉しくない雨降り天気も、少し見方を変えると、嬉しいお恵みになり、ありがとうと思えるようになります。

自然相手でもなくても、毎日の生活の中では、自分の思い通りにならないことが起こります。そんなとき、少しだけ見方を変えて、ありがとうを見つけることができれば、すてきな毎日になるのではないのでしょうか。

